

## 東日本大震災が発生した3月11日を迎えて

2011年(平成23年)3月11日に発生した東日本大震災から14年を迎えました。あらためて、地震によって犠牲となられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された全ての方々へのお見舞いを申し上げます。

さて、東日本大震災は、最大震度7を観測し、東北地方の太平洋沿岸部を中心に広い範囲に甚大な被害をもたらし、震災による死者・行方不明者は1万8千人を超え、多くの人命が奪われ、電気、水道、道路、鉄道等のライフラインにも甚大な被害が発生し、「防災」の考え方を大きく見直すきっかけとなりました。

また、2016年(平成28年)4月の熊本地震、昨年1月の能登半島地震では、改めて地震災害の恐ろしさを認識するとともに、防災・減災の難しさを痛感させられることとなりました。

南海トラフ沿いでの大規模地震については、今後30年以内にマグニチュード8～9級の地震が発生する確率が70%から80%とされており、昨年の8月に起きた宮城県日向灘での地震で、「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」が初めて発表された際には、いつ大規模地震が発生してもおかしくない切迫性の高い状態であることを再認識しました。

私たちは、東日本大震災、熊本地震、そして能登半島地震から多くの教訓を継承し、日々その教訓を活かせるよう、引き続き、「自らの命は自らが守る」との意識を持ち、備えや訓練を繰り返し取り組む必要があります。

竜王町といたしましても、町民の皆さまが安心・安全に暮らせるよう、防災に対する意識を常に維持し、「自助」「共助」「公助」の強化連携を図りながら、迅速・的確に行動できるよう努めてまいります。

町民の皆さまにおかれましても、改めて災害への備えと安心・安全なまちづくりへのご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、被災された各地の早期復興を心からお祈り申し上げ、3月11日を迎えてのメッセージとさせていただきます。

令和7年3月11日

竜王町長 西田 秀治